

福島県医療福祉機器産業協議会



福島県立医大の医師ら(右)と意見交換するフォースエンジニアリングの担当者

福島県立医大で4社ピッチ

福島県医療福祉機器産業協議会(福島県郡山市、林由美子会長)タカラ印刷相談役)は、福島県立医科大学と共同で「医療連携ピッチ」を開催し、介護・医療機器を開発する中小企業の底上げに役立てている。このほど同協議会の会員企業4社が参加し、開発中も含めた製品・技術について福島県立医大で短いプレゼンテーションを実施。その後、各社ごとに医師との意見交換を行った。改善点やニーズ、新しいアイデアを取り入れ、製品開発に生かしていくという。(藤元正)

医療連携ピッチは今4社。それぞれ微小血回が3回目。参加した管針・医療・介護ロボットのフォースエンジニアリング(宇都宮市)、冷陰極X線管、自動生アイザック(福島県会 検針などを手がける。津若松市)ピュアロン 今回は事前に医師7ジャパン(同いわき人から各社への面談予約)、タスク(栃木市)の約があったが、予約な

医師の意見 製品開発に生かす

しの医療関係者も空き った意見が聞かれた。時間に立ち寄れるよ 福島県立医大でも企業との連携を前向きにいた上で16時から3時 捉えている。医療研究間の時間枠で面談を実施している。各社のテ 連携部門長の下村健寿ーブルには次々に医師 教授(病態制御薬理医らが訪れ、担当者との学)は「4社7製品を間で突っ込んだやりと 一度に説明してもらえりをしてきた。こうし るような機会はめつた取り組みに参加企業 はない。ぜひ医師の生からは「実際には社内 の声を集めるものに アイデアだけで技術 して、両者でウインウ や製品を作っても医療 ンの関係を築いてい 現場に需要があるのか ってほしい」と話す。 どうか分からない。中 関係者によると大学 には我々の知らないよ 側の評判が良いことか うな使い方もあり、医 ら、2023年度中に 師との意見交換は参考 もう1回実施する案も になる」(タスク)とい 出ているという。